

Quality is more than a word

ESPEC



第 **59** 期

株主通信

平成23年4月1日から平成24年3月31日まで



目 次

株主のみなさまへ：TOP MESSAGE 1

お知らせ 5

TOPICS 6

連結業績の推移 8

事業別概況 9

要約財務諸表(連結) 11

要約財務諸表(単体) 14

会社の概要・役員 15

株式の状況・株主メモ・株主アンケートのお願い 16

株主のみなさまへ

みなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

第59期(平成23年4月1日～平成24年3月31日)における業績ならびに取り組みにつきましてご報告申し上げます。



いしだ まさあき
代表取締役社長 石田 雅昭

当期の業績

増収・増益を達成

当期のわが国経済は、東日本大震災のダメージから回復してまいりましたが、長引くデフレや円高、欧米の景気低迷に加え、タイの洪水による影響を受けるなど厳しい状況が続きました。当社の主要顧客におきましては、震災の影響や業績悪化などによる投資計画の見直しや先送りがありましたが、スマートフォンや二次電池関連の好調市場での積極投資が継続し、電子部品・電子機器や自動車関連メーカーを中心に開発投資が堅調に推移しました。

当社は、電池を主とするグリーンテクノロジー市場での販売拡大に集中するとともに、恒温恒湿器プラチナスシリーズをフルモデルチェンジすることで、買い替えを促進してまいりました。また、環境試験市場が拡大している中国などのアジア新興国を中心に営業活動を強化してまいりました。

こうした結果、受注高・売上高はともに前期比で増加し、利益面につきましても前期実績を上回りました。

	前期累計 [第58期] (百万円)	当期累計 [第59期] (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	30,924	31,692	2.5
売 上 高	29,589	31,906	7.8
営 業 利 益	1,391	1,828	31.4
経 常 利 益	1,683	2,076	23.3
当期純利益	1,654	1,929	16.7

連結業績

中期経営計画

「プログレッシブ プラン2013」

当社は平成23年11月に、第59期から第61期までの3ヵ年を対象としたエスベック中期経営計画を発表いたしました。

今後ますます加速される「グリーンイノベーション」を絶好のビジネスチャンスととらえ、“攻めの経営”に転換することで、プログレッシブな経営を展開していくことを新たな基本方針としております。

PROGRESSIVE PLAN 2013

計画実施期間 2011～2013 年度

中期基本方針

『グリーンイノベーションを
絶好のビジネスチャンスととらえ、
“攻めの経営”に徹する!』

連結業績目標

売上高 **400** 億円以上
営業利益 **32** 億円以上
営業利益率 **8%** 以上

	2011 年度 [第59期]	2012 年度 [第60期]	2013 年度 [第61期]
売 上 高	315 億円以上	350 億円以上	400 億円以上
営 業 利 益	13 億円以上	25 億円以上	32 億円以上
営業利益率	4% 以上	7% 以上	8% 以上

年度別業績目標

中期経営計画の進捗

初年度は業績目標を達成

第59期は中期経営計画の初年度にあたりますが、業績目標を達成することができました。各方針の進捗について以下のとおりご報告いたします。

方針1:「グリーンテクノロジー市場での成長加速」

二次電池、パワー半導体、太陽電池などに関連する市場を「グリーンテクノロジー市場」と位置付けております。

二次電池市場では、車載用リチウムイオン二次電池のISO(国際標準化機構)規格の発行などを背景に、二次電池の性能評価用の充放電試験チャンバーや耐環境評価用の環境試験装置の受注・売上が好調に推移しました。さらに、昨年10月にはバッテリーソリューションシステム事業部を設置し、開発評価分野向けのアドバンスド・バッテリーテスト(充放電サイクル評価装置)や生産分野への新たな設備投資に対応した電極乾燥装置の受注獲得に努めてまいりました。

パワー半導体市場では、EV(電気自動車)、HEV(ハイブリッド自動車)用インバータなどに搭載されるパワー半導体の開発評価向けの専用装置を開発し受注を獲得しました。

太陽電池市場では、受託試験の好調な受注が継続しております。また、米国再生可能エネルギー研究所

主催の「太陽電池モジュール信頼性国際ワークショップ」において、太陽電池モジュールの国際標準化への取り組みに参画してまいりました。

方針2:「中国・アジアを中心とした海外事業の拡大」

中国・アジア市場の成長に支えられ、海外関係会社における受注・売上が好調に推移しました。

また、中国、アジアにおいて、グリーンテクノロジー市場に関わる顧客開拓を積極的に行い、スマートフォンやタブレット型端末に搭載する二次電池などの好調市場に向けた取り組みに注力してまいりました。さらに、円高の長期化を想定して海外生産の拡大を図るべく、韓国、中国、北米の各拠点において工場の拡張や設備の増強に向けた準備を進めてまいりました。

方針3:「国内市場の深耕による収益力の強化」

省エネ性能に優れた恒温恒湿器ブラチナスJシリーズを市場投入し、冷熱衝撃装置TSAシリーズや恒温恒湿室ビルドインEシリーズとともに買い替え促進に注力しました。また、新素材の開発に関わる先端企業をターゲットに新たな引合い獲得を進めてまいりました。

植物工場事業では、ロシアなどの海外からの引合い獲得に注力するとともに、品質向上とコストダウンを目的に標準モデルの確立を進めてまいりました。

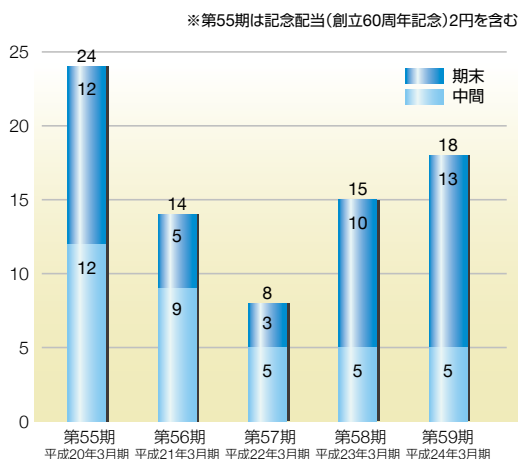
株主さまへの利益還元

増配を実施

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であると考えております。

配当につきましては、継続性と連結配当性向を勘案して決定しておりますが、期末配当金を1株当たり13円へ増額させていただくことを定時株主総会において決議いただきました。したがいまして、年間の配当金は中間配当金5円とあわせ1株当たり18円となりました。

今後も当社は株主さまとのよりよい関係構築に向け取り組んでまいります。株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



一株当たり配当額の推移

第60期の業績計画

増収・増益を計画

当社グループを取り巻く経営環境は、依然として不透明な状況が継続しておりますが、景気が緩やかに回復するとともにグリーンイノベーションへの投資は引き続き拡大するものと予測しております。当社の主要顧客におきましては、業績回復により開発投資や設備投資が増加するものと考えられます。また、電力供給懸念などから省エネニーズはより一層高まるものと思われれます。

このような状況に対応して、国内では市場投入した省エネタイプの新製品により買い替え需要を喚起し拡販を図ってまいります。また、海外では海外子会社での生産を拡大するとともに中国やアジア新興国において販売を強化するなど海外売上の伸長を図ってまいります。

次期の業績計画としましては、売上高は前期比10%増加の350億円、営業利益は25億円と前期に引き続き増収・増益を計画しております。

売上高 **350**億円
営業利益 **25**億円
(営業利益率 7%)

名誉会長 小山栄一が永眠いたしました

当社名誉会長小山栄一は、平成23年12月12日に享年84歳にて永眠いたしました。謹んでお知らせ申し上げますとともに、故人が生前に賜りましたご厚情ご厚誼に対しまして心よりお礼申し上げます。また、平成24年2月7日に執り行いました「お別れの会」に際しましては多数の方々にご参会賜り、重ねてお礼申し上げます。

小山栄一は昭和22年、戦後の焼け跡が残る大阪の地で田葉井製作所(現エスベック)の創業に参加し、主に営業部門で活躍しました。昭和55年には社長に就任し、平成4年までの13年間にわたり陣頭指揮を執りました。

理化学器械メーカーとして創業した当社でしたが、日本が高度成長期を迎えたころ、電化製品の急激な普及を背景に拡大する環境試験ニーズにいち早く着目し、昭和35年には国内初となる環境試験器の



開発に着手。理化学器械事業から環境試験事業に転身を図り、世界基準となる環境試験器を世に出し、世界トップメーカーとしての地位を築きあげました。その後も、東証・大証一部上場を果たすなど経営の近代化に取り組みました。また、日本試験機工業会会長や大阪科学機器協会理事長、大阪商工会議所常議員等を歴任し、試験機業界の振興をはじめ産業界の発展にも尽力いたしました。

故人が常々説いておりました「一味違うことを一足早く」は、今では「プログレッシブ(進取的)」という言葉に置き換えられ、当社のポリシーとして脈々と受け継がれています。当社は今後も「プログレッシブ」な考動により、“環境創造技術”を通して社会に貢献してまいります。今後とも変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。



「お別れの会」献花会場（於 帝国ホテル大阪）

New 恒温恒湿器
「プラチナス」シリーズ」の発売

平成23年10月、ハイクオリティとカスタマイズ性を徹底的に追及した次世代の国際標準器となる恒温恒湿器「プラチナス」シリーズ」を発売しました。「プラチナスシリーズ」の伝統である高い信頼性・性能・安全性はもちろんのこと、新たに開発した冷凍制御技術などにより消費電力量を従来器比で最大70%※低減しました。また、設計・生産の両面から見直しを行い、カスタマイズ容易性を高めるとともに、ネットワーク通信機能等により機能の拡張性を向上させました。

平成24年3月には、マイナス70度の超低温に対応した恒温恒湿器やヒートパイプを搭載した高温高湿器、清浄度クラス5のクリーン恒温恒湿器など新たに6器種を発売し、全器種をラインアップしました。

※PL-3J：85℃/85%rh時における当社従来器との比較



恒温恒湿器「プラチナス」シリーズ」

New 冷熱衝撃装置
「TSAシリーズEHタイプ」の発売

平成23年11月、冷熱衝撃装置「TSAシリーズ」において、米国防総省MIL規格の厳しい条件にも適合したハイスペックタイプの省エネモデル(EH)を新たに発売し、全タイプをラインアップしました。冷熱衝撃試験とは、高温と低温の急激な温度差によるストレスを繰り返し試料に与えることにより温度変化に対する耐性を短時間で評価する試験です。新しい冷熱衝撃装置「TSAシリーズ」では、お客さまのご要望が強い「消費電力の低減」と「冷凍回路の信頼性向上」をテーマに開発し、消費電力量を従来器比で最大50%※低減するとともに、新たに開発した冷凍システムにより信頼性を高め、冷凍回路の3年間無償保証を実現しました。

※TSA-72EH-W：TSA71Hとの1サイクル当たりの比較



冷熱衝撃装置「TSAシリーズEHタイプ」

第8回エコプロダクツ大賞で
「審査委員長特別賞(奨励賞)」を受賞

子会社であるエスベックミック株式会社の「チガヤマット(張芝タイプ)」が、平成23年11月、エコプロダクツ大賞推進協議会主催の第8回エコプロダクツ大賞 エコプロダクツ部門 審査委員長特別賞(奨励賞)を受賞しました。

エスベックミックは森づくりや水辺づくりなどの環境エンジニアリング事業を行っております。

本製品は日本在来の多年生植物で乾燥や冠水に強いチガヤを用いた緑化用マットであり、河川堤防や道路など人工斜面を覆うことにより浸食を防止することができ、生物多様性の保全・向上や外来種の侵入抑制に効果を発揮します。

当社グループは今後も環境に配慮した製品・サービスを創出し社会貢献に努めてまいります。



チガヤマット
(張芝タイプ)



第8回エコプロダクツ大賞 表彰式

eco japan cup 2011で
「エコミュージック審査員応援賞」を受賞

当社社員と福知山市民による音楽ユニット「ゴーヤキャンディーズ」が、平成24年1月、環境省や総務省が主催するeco japan cup 2011において「カルチャー部門エコミュージック審査員応援賞」を受賞しました。「ゴーヤキャンディーズ」は、ゴーヤを用いた「みどりのカーテン」の普及を促進するために結成され、オリジナルソングとダンスで楽しくわかりやすい環境教育を行っています。また、平成24年2月には、「エスベックみどりの学校」の活動が評価され、東京商工会議所主催のeco検定アワード2011において当社環境管理部の社員が「エコピール大賞」を受賞しました。

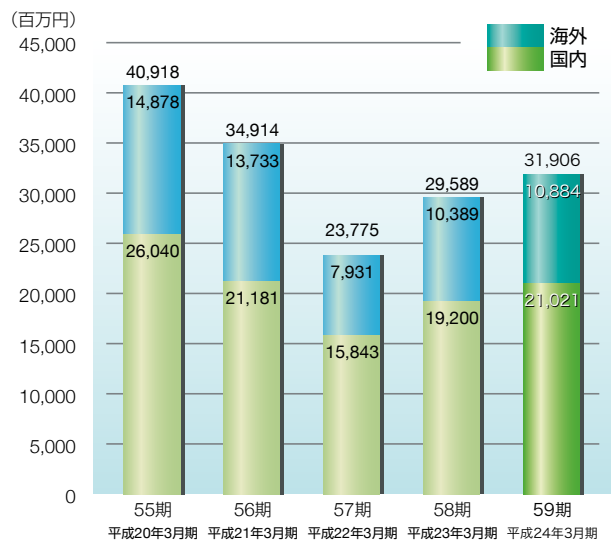
このような社外からの評価を励みに、これからも環境活動を積極的に推進してまいります。



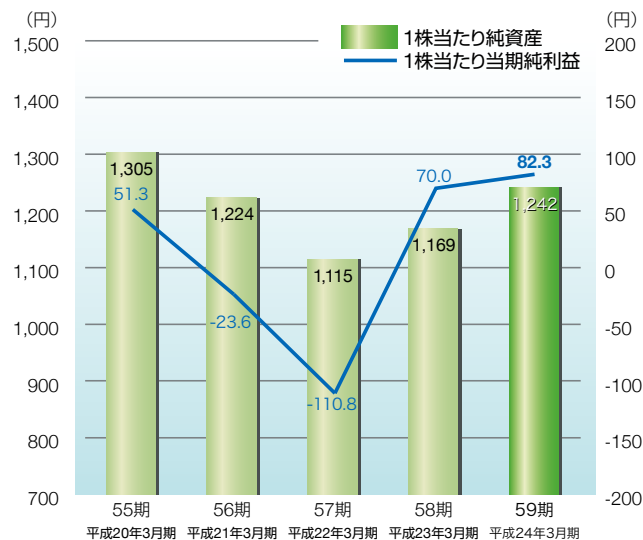
eco japan cup 2011 表彰式

連 結 業 績 の 推 移

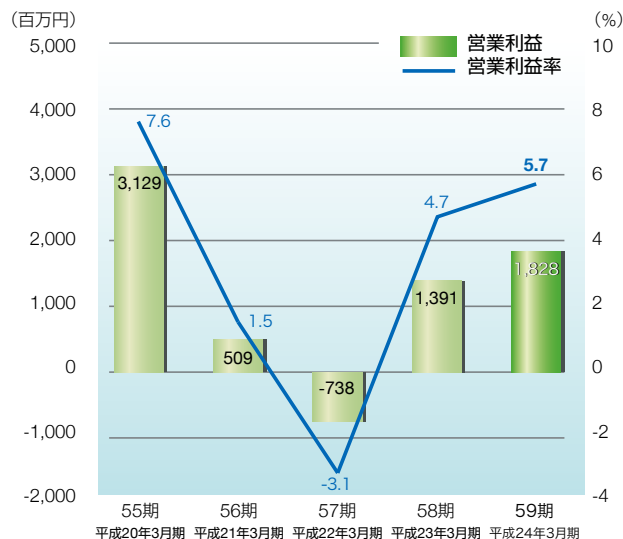
売上高



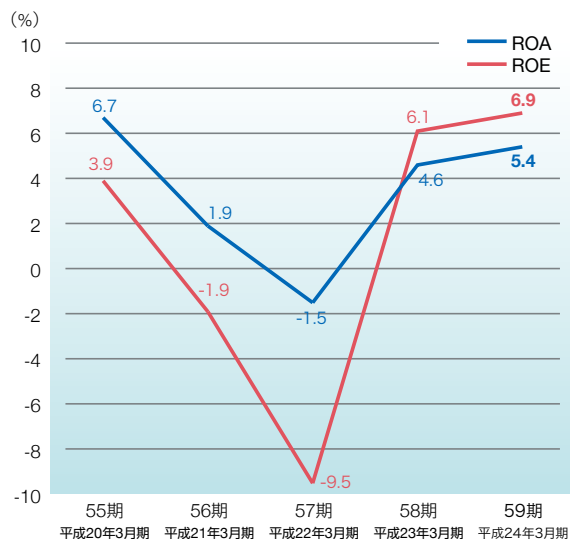
1株当たり純資産／1株当たり当期純利益



営業利益／営業利益率



総資産経常利益率[ROA] 自己資本利益率[ROE]



装置事業

■ 事業内容

温度や湿度、その他環境因子が電子部品等に与える影響を試験する環境試験器を提供しています。また、半導体検査工程におけるバーンイン装置や、半導体・電子部品などの電気的特性を評価する計測システム、液晶などのFPDの生産ラインにおける熱処理装置・検査装置、電池を主としたグリーンテクノロジー市場向けのエネルギーデバイス装置などを提供しています。

■ 業績の状況

環境試験器につきましては、国内市場においては、電池関連やスマートフォン関連などの好調市場を中心に研究開発用途の恒温恒湿器などの受注が増加しました。海外市場においても、中国関係会社の好調な受注が継続するとともに、タイの洪水による装置の入れ替えなどがありました。こうした結果、受注高・売上高ともに前期比で大幅に増加しました。

半導体関連装置につきましては、スマートフォン向け半導体の増産などによりバーンイン装置や評価システムの受注が堅調に推移し、売上高は前期比で増加しました。

FPD関連装置につきましては、台湾や国内のメー

カー向けに小型液晶パネル用のクリーンオープンを受注したことにより、受注高は前期比で大幅に増加しました。売上高は、受注案件の一部を次期に売上計上する予定であるため、前期比で減少しました。

エネルギーデバイス装置につきましては、子会社のエスベックテクノ株式会社において、二次電池検査装置などが堅調に推移しました。また、エスベック本体で取り組む二次電池製造装置の引合いが第3四半期から増加し受注・売上に繋がってまいりましたが、受注高・売上高ともに計画を下回りました。

こうした結果、受注高は前期比で4.0%増加し25,551百万円、売上高は前期比で10.0%増加し25,889百万円となりました。営業利益につきましては、固定費が増加しましたものの、売上高の増加や原価率の改善により前期比で29.7%増加し1,559百万円となりました。

	前期累計 [第58期] (百万円)	当期累計 [第59期] (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	24,557	25,551	4.0
売 上 高	23,529	25,889	10.0
営業利益	1,202	1,559	29.7

サービス事業

■ 事業内容

製品のアフターサービスや改造・周辺工事などのエンジニアリング、試験を代行する受託試験、製品レンタルなどさまざまなサービスを提供しています。

■ 業績の状況

アフターサービス・エンジニアリングにつきましては震災の影響がありましたが、受注高は前期と同水準を確保し、売上高はアフターサービスの伸長により前期比で増加しました。

受託試験・レンタルにつきましては、主要顧客である自動車関連メーカーからの受注が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加しました。こうした結果、受注高は前期と同額の5,320百万円、売上高は前期比で5.4%増加し5,301百万円となりました。営業利益につきましては、売上高の増加により前期比で84.6%増加し486百万円となりました。

	前期累計 [第58期] (百万円)	当期累計 [第59期] (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	5,320	5,320	0.0
売 上 高	5,027	5,301	5.4
営業利益	263	486	84.6

その他事業

■ 事業内容

森づくりや水辺づくり、都市緑化などの環境エンジニアリング事業や、野菜育成装置などを提供する植物工場事業を行っています。

■ 業績の状況

その他事業につきましては、環境エンジニアリング事業、植物工場事業ともに、震災の影響による官公庁や顧客企業の予算凍結などで低調に推移し、受注高は前期比で18.6%減少し952百万円、売上高は前期比で27.0%減少し845百万円となりました。利益面につきましては、218百万円の営業損失となりました。しかしながら、次期へ繋がる取り組みとして、東北地方の「いのちを守る森の防潮堤」への支援や植物工場のロシア展開といった活動に注力してまいりました。

	前期累計 [第58期] (百万円)	当期累計 [第59期] (百万円)	増減率 (%)
受 注 高	1,170	952	△18.6
売 上 高	1,158	845	△27.0
営業利益	△77	△218	—

要 約 財 務 諸 表 (連 結)

連結貸借対照表

科 目	前 期 平成 23 年 3 月 31 日	当 期 平成 24 年 3 月 31 日
資産の部		
流動資産	26,666	27,494
現金及び預金	8,511	7,357
受取手形及び売掛金	12,090	13,215
有価証券	1,300	2,300
商品及び製品	225	368
仕掛品	1,527	1,179
原材料及び貯蔵品	1,039	1,038
繰延税金資産	524	722
その他	1,457	1,323
貸倒引当金	△ 11	△ 11
固定資産	11,239	11,134
有形固定資産	8,230	8,124
建物及び構築物(純額)	3,166	3,021
機械装置及び運搬具(純額)	224	197
工具、器具及び備品(純額)	380	413
土地	4,413	4,407
リース資産(純額)	38	68
建設仮勘定	7	15
無形固定資産	285	253
投資その他の資産	2,723	2,755
投資有価証券	1,637	1,651
繰延税金資産	17	11
その他	1,157	1,125
貸倒引当金	△ 89	△ 33
1 資産合計	37,905	38,628

(注)有形固定資産の減価償却累計額

前 期	当 期
9,319百万円	9,528百万円

- 1** 総資産は38,628百万円となり、前期末と比べ722百万円の増加となりました。その主な要因は、現金及び預金の減少1,153百万円、受取手形及び売掛金の増加1,124百万円、有価証券の増加1,000百万円、仕掛品の減少348百万円などによるものです。

(百万円)

科 目	前 期 平成 23 年 3 月 31 日	当 期 平成 24 年 3 月 31 日
負債の部		
流動負債	8,535	8,046
支払手形及び買掛金	5,654	4,837
短期借入金	200	—
1年内返済予定の長期借入金	10	—
未払法人税等	62	128
賞与引当金	366	385
役員賞与引当金	7	2
製品保証引当金	188	273
その他	2,046	2,418
固定負債	1,789	1,531
長期借入金	168	—
繰延税金負債	103	119
退職給付引当金	42	23
再評価に係る繰延税金負債	716	627
その他	759	762
2 負債合計	10,325	9,578
純資産の部		
株主資本	29,160	30,577
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172
利益剰余金	15,294	16,869
自己株式	△ 202	△ 360
その他の包括利益累計額	△ 1,734	△ 1,687
その他有価証券評価差額金	166	227
繰延ヘッジ損益	△ 5	—
土地再評価差額金	△ 828	△ 741
為替換算調整勘定	△ 1,067	△ 1,174
少数株主持分	155	160
純資産合計	27,580	29,050
3 負債純資産合計	37,905	38,628

- 2** 負債は9,578百万円で前期末と比べ746百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少816百万円、短期・長期借入金の減少378百万円、その他流動負債の増加372百万円などによるものです。

- 3** 純資産は29,050百万円で前期末と比べ1,469百万円増加となりました。その主な要因は利益剰余金の増加1,575百万円、自己株式の取得による減少157百万円などによるものです。

連結損益計算書

(百万円)

科 目	前 期	当 期
	平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
4 売上高	29,589	31,906
売上原価	20,370	21,367
売上総利益	9,219	10,538
販売費及び一般管理費	7,827	8,710
営業利益	1,391	1,828
営業外収益	357	318
営業外費用	64	69
経常利益	1,683	2,076
特別利益	63	21
特別損失	85	40
税金等調整前当期純利益	1,661	2,057
法人税、住民税及び事業税	215	256
法人税等調整額	△ 227	△ 193
少数株主損益調整前当期純利益	1,674	1,995
少数株主利益	19	65
5 当期純利益	1,654	1,929

(注) 1株当たり当期純利益

前 期
70円03銭

当 期
82円31銭

- 4 震災の影響や業績の悪化などによる投資計画の見直しや先送り、半導体メーカー破綻の影響などがありましたものの、スマートフォン関連や二次電池関連などの好調市場における積極的な設備投資が継続するとともに、電子部品・電子機器メーカーや自動車関連メーカーを中心に開発投資が堅調に推移し、増収となりました。
- 5 当期純利益は、固定費が増加しましたが、売上高の増加と原価率の改善により前期実績を上回りました。

連結株主資本等変動計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(百万円)

科 目	株 主 資 本					そ の 他 の 包 括 利 益 累 計 額					少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	6,895	7,172	15,294	△ 202	29,160	166	△ 5	△ 828	△ 1,067	△ 1,734	155	27,580
当期変動額												
剰余金の配当			△ 351		△ 351							△ 351
当期純利益			1,929		1,929							1,929
自己株式の取得				△ 157	△ 157							△ 157
その他			△ 2		△ 2							△ 2
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						61	5	86	△ 106	46	5	52
当期変動額合計			1,575	△ 157	1,417	61	5	86	△ 106	46	5	1,469
当期末残高	6,895	7,172	16,869	△ 360	30,577	227	—	△ 741	△ 1,174	△ 1,687	160	29,050

要 約 財 務 諸 表 (連 結)

連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	当 期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,661	2,057
減価償却費	712	740
減損損失	2	6
投資有価証券評価損益(△は益)	35	21
持分法による投資損益(△は益)	△ 161	△ 153
売上債権の増減額(△は増加)	△ 2,353	△ 1,177
たな卸資産の増減額(△は増加)	△ 842	△ 67
仕入債務の増減額(△は減少)	1,823	△ 790
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△ 325	△ 112
その他	580	464
1 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,133	987
投資活動によるキャッシュ・フロー		
信託受益権の取得による支出	△ 2,219	△ 2,258
信託受益権の償還による収入	1,957	2,337
有形及び無形固定資産の取得による支出	△ 157	△ 330
有形及び無形固定資産の売却による収入	1	1
投資有価証券の取得による支出	△ 2	△ 1
投資有価証券の売却及び償還による収入	188	45
その他	1	△ 23
2 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 230	△ 229
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	630	50
短期借入金の返済による支出	△ 600	△ 250
長期借入金の返済による支出	△ 10	△ 174
配当金の支払額	△ 188	△ 349
その他	△ 157	△ 189
3 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 327	△ 912
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 130	△ 34
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	444	△ 189
現金及び現金同等物の期首残高	9,374	9,819
現金及び現金同等物の期末残高	9,819	9,630

- 1 営業活動によるキャッシュ・フローは、987百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、税金等調整前当期純利益の計上2,057百万円、売上債権の増加1,177百万円などによるものです。
- 2 投資活動によるキャッシュ・フローは、229百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、信託受益権の取得による支出2,258百万円、信託受益権の償還による収入2,337百万円、有形及び無形固定資産の取得による支出330百万円などによるものです。
- 3 財務活動によるキャッシュ・フローは、912百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、短期・長期借入金の返済による支出424百万円、配当金の支払額349百万円、自己株式の取得による支出157百万円などによるものです。

ご参考

(百万円)

科 目	前 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	当 期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
設備投資額	421	654
減価償却費	703	731
研究開発費	1,092	1,358
(対売上高比率)	(3.7%)	(4.3%)

要 約 財 務 諸 表 (単 体)

貸借対照表

(百万円)

科 目	前 期 平成23年3月31日	当 期 平成24年3月31日
資産の部		
流動資産	22,127	23,180
現金及び預金	7,010	5,647
受取手形及び売掛金	10,200	11,435
有価証券	1,300	2,300
たな卸資産	1,671	1,422
繰延税金資産	487	679
その他	1,461	1,698
貸倒引当金	△ 4	△ 3
固定資産	12,115	12,185
有形固定資産	7,194	7,157
建物及び構築物(純額)	2,535	2,441
機械装置及び運搬具(純額)	114	94
工具、器具及び備品(純額)	348	388
土地	4,154	4,152
リース資産(純額)	32	64
建設仮勘定	7	15
無形固定資産	261	225
投資その他の資産	4,659	4,803
投資有価証券	3,713	3,728
その他	1,034	1,107
貸倒引当金	△ 88	△ 32
資産合計	34,242	35,366
負債の部		
流動負債	6,264	6,117
支払手形及び買掛金	4,488	4,031
未払金	527	620
賞与引当金	345	363
製品保証引当金	156	229
その他	748	873
固定負債	1,513	1,404
長期預り保証金	607	609
再評価に係る繰延税金負債	716	627
その他	189	167
負債合計	7,778	7,522

(百万円)

科 目	前 期 平成23年3月31日	当 期 平成24年3月31日
純資産の部		
株主資本	27,122	28,351
資本金	6,895	6,895
資本剰余金	7,172	7,172
利益剰余金	13,255	14,642
自己株式	△ 202	△ 360
評価・換算差額等	△ 657	△ 507
その他有価証券評価差額金	170	234
土地再評価差額金	△ 828	△ 741
純資産合計	26,464	27,843
負債純資産合計	34,242	35,366

損益計算書

(百万円)

科 目	前 期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	当 期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
売上高	22,490	24,582
売上原価	15,252	16,347
売上総利益	7,238	8,234
販売費及び一般管理費	6,322	7,088
営業利益	915	1,146
営業外収益	694	492
営業外費用	67	30
経常利益	1,542	1,608
特別利益	2,690	20
特別損失	194	36
税引前当期純利益	4,039	1,592
法人税、住民税及び事業税	47	60
法人税等調整額	△ 288	△ 204
当期純利益	4,280	1,736

(注) 1株当たり当期純利益

前 期
181円23銭

当 期
74円08銭

会社の概要（平成24年3月31日現在）

社 名 エスベック株式会社
 英 文 社 名 ESPEC CORP.
 創 業 昭和22年7月25日
 設 立 昭和29年1月13日
 資 本 金 6,895百万円
 従 業 員 数 1,339名(連結) 858名(単体)
 U R L <http://www.espec.co.jp/>
 投資家情報ページ
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

主 な 事 業 所

本 社 大阪市北区天神橋3丁目5番6号
 営 業 拠 点 首都圏オフィス・仙台・熊谷・名古屋
 大阪・広島・福岡

工場その他事業所 福知山・宇都宮・神戸

子会社および
関 連 会 社

エスベックテクノ株式会社
 エスベック九州株式会社
 エスベックミック株式会社
 株式会社ミックファーム大口
 ESPEC NORTH AMERICA, INC.
 ESPEC EUROPE GmbH
 上海愛斯佩克環境設備有限公司
 広州愛斯佩克環境儀器有限公司
 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
 ESPEC (CHINA) LTD.
 ESPEC KOREA CORP.
 ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN.BHD.

役員（平成24年6月26日現在）

代表取締役社長 石 田 雅 昭
 常 務 取 締 役 廣 信 義
 常 務 取 締 役 島 田 種 雄
 常 務 取 締 役 石 井 邦 和
 取 締 役 桶 谷 馨
 取 締 役 村 上 精 一
 取 締 役 志 関 誠 男
 常 勤 監 査 役 松 南 雅 己
 常 勤 監 査 役 村 上 充
 監 査 役 松 村 安 之
 監 査 役 村 瀬 一 郎

(注)

1. 取締役 志関誠男氏は、社外取締役であります。
2. 監査役 松村安之氏および村瀬一郎氏は、社外監査役であります。

株 式 の 状 況 ・ 株 主 メ モ

株式の状況（平成24年3月31日現在）

会社が発行する株式の総数 80,000,000株
 発行済株式の総数 23,260,372株
 （自己株式521,022株を除く）
 株主数 6,091名

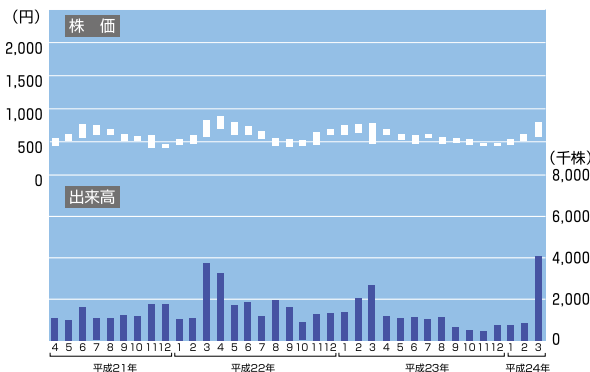
大株主

株 主 名	持株数 千株	出資比率 %
エスベック取引先持株会	1,658	6.97
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	1,349	5.67
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	1,152	4.84
日本生命保険相互会社	929	3.91
エスベック従業員持株会	765	3.22
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT-TREATY CLIENTS	640	2.69
株式会社みずほコーポレート銀行	535	2.25
エスベック株式会社	521	2.19
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	456	1.91
株式会社立花エレテック	419	1.76

所有者別分布状況



株価・出来高の推移



株主メモ

決 算 期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月
中間配当制度 有
基 準 日 3月31日および取締役会決議によってあらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所 東京・大阪証券取引所（証券コード：6859）
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先 〒168-8507
 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先 0210-288-324
お取扱店 みずほインベスターズ証券株式会社
 （本店および全国各支店、プラネットブース〔株式会社みずほ銀行内の店舗〕）
 みずほ信託銀行株式会社（本店および全国各支店）

未払配当金のお支払い みずほ信託銀行株式会社（本店および全国各支店）
 株式会社みずほ銀行（本店および全国各支店）
 （みずほインベスター証券株式会社では取次のみとなります）

公 告 方 法 電子公告
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
 なお、電子公告は当社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。
<http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/>

お 問 合 せ 先 エスベック株式会社
 総務人事部 総務グループ
 Tel: 06-6358-8820 Fax: 06-6358-5500
 e-mail: ir-div@espec.jp

株主アンケートのお願い

当社では、株主のみなさまからいただいたご意見を真摯に受け止め、経営に反映させていきたいと考えております。つきましては、別紙アンケートにご協力いただきますようお願い申し上げます。（締切：平成24年7月26日当日消印有効）
 アンケート結果につきましては、中間株主通信にて報告させていただきます。なお、アンケートにお答えいただいた方のなかから、抽選で300名の方に1,000円分の図書カードを進呈いたします。（当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。）

証券コード:6859

エスペック株式会社

